

2012年留学生センター活動報告

林 文明・桜山一倉・高瀬利恵子・及川浩和・古川竜治
清水勝昭・吉川せつ・荒河由香・謝 珉

1. はじめに

本学では、留学生や周りの日本人学生・教員が集え、安心でき、交流を深められる“癒やしの場”留学生センター（以下「センター」と略す）を2009年4月より立ち上げ、今年で4年目を迎える。日常の学習と交流を始めとして、学内活動・地域との交流活動・留学生の文化活動等を行っている。

本稿では、2012年にセンターが行った活動について報告する。

2. 年間行事

センターでは、センター会議を毎週1回定例化し、活動の計画を話し合うとともに、活動後の報告をすることで、反省点等を見出し、今後の活動を有意義なものになるよう取り組んだ。また、留学生の状況についても報告し、情報を共有化し、すべての教員が留学生の状況を認識した上で対応するようにした。また必要があれば他部署等と調整し、学内の協力の下、留学生のサポートを行ってきた。

以下に、2012年に行った主要な活動について列記する。

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| 1月27日 | 第2回新春国際交流会（センター） |
| 2月17日 | 坂祝中学校ふるさと体験（センター） |
| 4月20日 | 春季留学生新入生歓迎会（学生ホール） |
| 4月30日 | 多国籍文化交流会（本学敬愛寮食堂） |
| 5月27日 | 国際交流スポーツ大会（本学、坂祝町西館） |
| 5月22, 24, 31日 | DVD鑑賞会（センター） |
| 7月20日 | 第3回日本語弁論大会と懇親会（本学223教室、センター） |
| 8月3日 | 富加児童館まつり（富加町児童館） |
| 8月7, 8, 21, 22日 | ヒッポファミリーのホームステイに参加 |
| 10月20日 | 秋季留学生新入生歓迎会（本学1, 2号館中庭） |
| 10月21日 | 美濃加茂市中山道祭り（美濃加茂市中山道） |
| 10月20, 21日 | 大学祭 各地域・民族から4つの模擬店出店（本学） |

- 10月27日 第12回岐阜県内留学生日本語弁論大会 3名発表（岐阜経済大学）
10月27, 28日 世界ふれあい広場, ホームステイ（富加町B&G海洋センター）
11月20日 池に映る紅葉のライトアップ見学（土岐市曾木公園）

活動への参加は、日本人学生にとっても留学生にとっても、異文化交流という重要な意義があり、留学生も日本文化への理解と感謝の気持ち、新鮮な感動を体験している。しかし、欲を言えば、それが友人のように長く続くものになれば、それは本物の心の交流へと育っていく。よって、これは自然に発生し、強制することはできないが、心の交流へとつながるよう一つずつの活動を大事にし、サポートしていきたい。

3. センター活動の様子

1月27日にセンターで、第2回新春国際交流会を実施し、日本のお正月を体験した。また、日本の歌を通じ学生、教職員、国際交流関係者相互の交流を深めるという目的で、お餅作りとカラオケを行った。参加者は、留学生13名、日本人学生1名、教職員12名、外部国際交流関係者2名の総勢28名で、楽しい一時を過ごした。（写真1, 2, 3, 4）



写真1

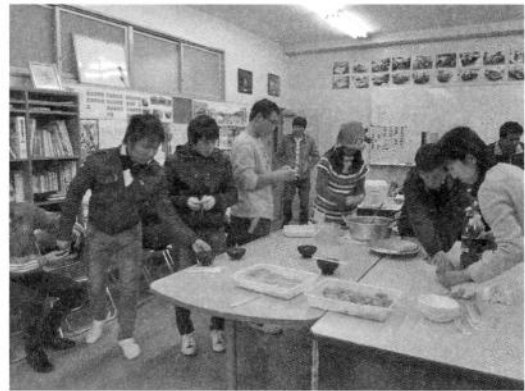


写真2



写真3



写真4

2月17日には、坂祝中学校の生徒7名がふるさと体験で来学し、本学留学生とセンターで交流をした。(写真5, 6)



写真5



写真6

新年度を迎え、4月20日に学生ホールで、春季留学生新入生歓迎会を実施した。参加者は、本学留学生45名、中日本航空専門学校留学生2名、岐阜医療科学大学留学生1名、日本人学生2名、



写真7



写真8



写真9



写真10

本学教職員26名、中日本航空専門学校職員1名、神野学園本部1名の総勢78名で、ビンゴゲーム等で盛り上がり交流を深めた。(写真7, 8, 9, 10)

4月30日には、多国籍文化交流会をヒッポファミリークラブ(外部団体)の方々と、国際交流を目的とし、本学敬愛寮食堂で実施した。参加者は、本学留学生25名、本学留学生OB2名、ヒッポファミリークラブ24名、正眼短大留学生3名、センター員3名の総勢57名で、各種リクレーションを通じ交流を深めた。(写真11, 12, 13, 14)



写真11



写真12



写真13



写真14

7月20日に本学223教室で、留学生の日本語能力向上と学習成果の発表、学内外の関係強化を趣旨として第3回日本語弁論大会を実施し、留学生7名が発表した。実施に当たり、坂祝町に呼びかけ、回覧板で地域の方々に知らせ、また今まで交流を行ってきた地域団体等にも案内した。大会審査員4名の内1名を坂祝町に依頼し、当日は坂祝町長に審査員を務めていただき、挨拶も頂戴した。聴衆として42名が来訪し、地域からも5名の来訪があった。発表者は皆堂々と発表し、聴衆も感銘を受けていた。最優秀賞は自動車工学科1年のチョウエンさん、優秀賞は自動車工学科1年のジョヨウさん、特別賞は留学生別科のアインさんだった。大会後、センターで懇親会を行い、外部の方々とも交流を深めた。(写真15, 16, 17, 18, 19, 20)



写真15



写真16



写真17



写真18



写真19



写真20

8月3日に富加町児童館で、富加児童館まつりが行われた。本学留学生も参加し、地域の小学生と各種リクレーションを通して交流を深めた。(写真21, 22, 23, 24)

8月7, 8日と8月21, 22日にヒッポファミリーの方が受け入れて下さるホームステイがあり、4名の留学生が貴重な体験をした。



写真21



写真22



写真23



写真24

秋学期に入り、10月20日に本学1, 2号館中庭で秋季留学生新入生歓迎会を実施した。参加者は、本学留学生27名、日本人学生4名、イタリア人短期留学生4名、本学教職員16名、神野学園本部4名、地域の方5名の総勢60名で、交流を深めた。参加者は、アカペラ、カラオケ等で各国の歌を披露し歓迎会が盛り上がった。(写真25, 26, 27, 28, 29, 30)

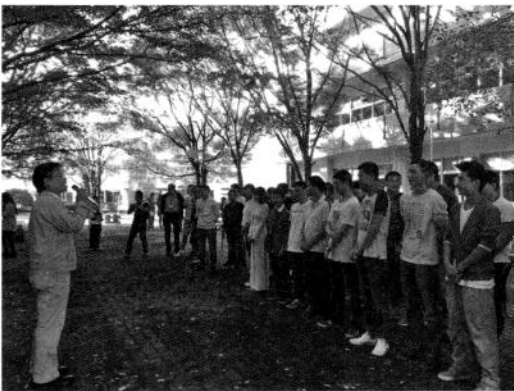


写真25



写真26



写真27



写真28



写真29



写真30

10月21日に美濃加茂市中山道で中山道祭りが行われ、地域の人々の温かい励ましを受けながら、8名の留学生が昔の武士の衣装を着て行列に参加し、日本文化を体験した。(写真31, 32)



写真31



写真32

10月20, 21日の2日間、本学で大学祭があり、本学留学生が各地域・民族から4つの模擬店を出店し、大盛況であった。(写真33, 34, 35, 36)



写真33



写真34



写真35



写真36

10月27日には、岐阜経済大学で第12回岐阜県内留学生日本語弁論大会が行われた。テーマは「日本の社会について」で、予選の原稿審査に合格した15名による発表が行われた。本学からの参加は3名で、国際自動車工学科3年のアデカリさんが、副題「トイレからみた日本」、自動車工学科1年チョウエンさんが、副題「日本の伝統文化」、自動車工学科2年チョウキホウさんが、副



写真37



写真38

題「日本人の仕事に対する態度」で、堂々とした発表をした。その結果、チョウエンさんが、審査員特別賞を受賞した。(写真37, 38, 39, 40)



写真39



写真40

10月27日に富加町B&G海洋センターで世界ふれあい広場が行われ、小学生やお年寄りとの交流を深めた。参加した10名の留学生は、ギターと歌を披露したり、中国の遊び「ジエンズ（羽根蹴



写真41



写真42



写真43



写真44

り)」をしたり、ゲームなどをして楽しんだ。(写真41, 42, 43, 44)。

11月20日に、留学生から要望があった紅葉見学を実施した。見学場所は、池に映る紅葉のライトアップで有名な名所、土岐市曾木公園である。参加者は母国では出来ない貴重な体験に満足していた。また、町の人たちによる手料理も食し、日本の四季や文化を味わった。(写真45, 46)



写真45



写真46

4. センターの利用状況

2009年4月より立ち上がったセンター利用者数は、初年度600名、2年目900名、3年目1,300名、4年目の今年は、11月現在ですでに1,100名を超えている。これは、年を追って、留学生の居場所としてのセンターの存在が周知されてきたこと、気軽に先生や友人に相談できる憩いの場所になってきたことが理由だと言えよう。

今年センターでは、地域交流を深めていくことに重点を置いて、美濃加茂国際交流協会、富加国際交流協会、ヒッポファミリークラブ等外部団体と交流を進めた。その結果、地域の行事への参加やホームステイなどより深い交流をすることが出来た。また、弁論大会などの学内行事を地域の方々に案内し、本学に来て頂くよう働きかけ、審査委員として坂祝町から町長に来て頂くことが出来た。

5. 今後の課題

センター利用者数は年々増加しているが、学内の日本人学生及び教職員の利用が少なく、学内での国際交流が薄いと考える。よって、もっと国際交流ができるような交流企画を考えていきたい。また、センターの学内行事にも地域の人々の参加を呼びかけているが、時間的問題も大きな要因で、なかなか足を運んでもらえないのが実状である。その点についても、今後の検討課題である。

9. ま と め

様々なセンター活動に参加している留学生は、その活動で交流を深めた地域の方々から家に招いてもらうなど、友好的、継続的な関係が生まれている。このことは、センターとして何より嬉しいことである。今後も日本をよく理解し、日本と母国の友好を深めていって欲しい。留学生としての本分は学業なので、その勉強がしっかり行えるよう、センターはやすらぎの場としての環境作りを充実していきたい。日頃よりセンター活動にご協力いただいている学内外の皆様に、深く感謝の意を表します。

参 考 文 献

- 1) 林文明・桜山一倉・高瀬利恵子・及川浩和・古川竜治・清水勝昭・吉川せつ・謝珉：留学生センター設立経緯とその意義，中日本自動車短期大学論叢，第41号，p115-124（2011）
- 2) 林文明・桜山一倉・高瀬利恵子・及川浩和・古川竜治・清水勝昭・吉川せつ・謝珉：留学生センター活動報告―地域との連携強化を課題として―，中日本自動車短期大学論叢，第42号，p117-125（2012）